

ポリオプラスについて



国際ロータリー第2820地区
ロータリー財団委員会
関 康彦(水戸RC)

「ポリオ」という病気

きゅうせいかいはくずいえん

1. ポリオ（急性灰白髄炎）は非常に感染性の高い病気であり、特に感染しやすいのは5歳未満の子ども（約90%）ですが、成人でも感染しうります。
2. 日本では『小児まひ』と呼ばれ1960年には患者5000人、1981年以降は予防接種により感染者はいません。
3. 神経細胞が破壊された場合、重篤な後遺症（骨格の変形、関節の拘縮、運動障害）を生じることもあり、呼吸筋の麻痺で死に至ることもあります。
4. 特異的な治療法は無く、ワクチンのみが予防法、他の多くの疾病と異なり「人から人にしか感染しない為、ポリオは根絶可能」なウイルスです。

ポリオプラスとは

ポリオワクチンと併せ、ハシカ、ジフテリア、結核、破傷風、百日咳など予防も同時にを行うことから『プラス』

公衆衛生が予防の上で大切、現地では汚水が流入する水源を生活用水とし利用しています。恒久的に利用できる井戸の整備なども行っています。

ロータリーでは根絶の認定が達成されるまで、**国際ロータリーのすべてのプログラムの中で最優される第一目標**です。

最終的に根絶が証明されるまで、ロータリアンが、常に最新情報を把握し、活動に関与していくことが大切です。

ポリオの現状①

- ・インドで根絶できた
政府が本気なった
運営レベルでの適切な行政活動につながる
技術支援を提供できる効果的なシステムがあった
タイムリーな是正措置の指針となる
インフルエンサーの活躍
集団的な行動につながりました



ポリオの現状2

インドで根絶できたことをパキスタン・アフガニスタンで行っています

しかし、宗教上の理由や戦争や情勢不安な国はワクチンに対する根強い不信感があり予防活動はとても難しい

パキスタンでは、イスラム過激派組織などが、SNSで「ワクチンの接種は、イスラム教徒を不妊にするための西側諸国の陰謀である」などの誤った情報を流し、人々に大きな影響を与えています

Getty Images

油井's
VIEW

“ワクチン不信”の要因に
“ビンラディン容疑者 殺害”



油井's View 最新記事一覧はこちら▲

2011年『アルカイダ』指導者
オサマ・ビンラディン容疑者

殺害

国際
報道

油井's
VIEW

“ワクチン不信”の要因に
“ビンラディン容疑者 殺害”



油井'sView 最新記事一覧はこちら▲



CIA

“ポリオワクチン
接種キャンペーン”

医師
家族の
DNA採取



Getty Images

ビンラディン容疑者

油井's
VIEW

“ワクチン不信”の要因に
“ビンラディン容疑者殺害”



油井'sView 最新記事一覧はこちら▲



殺害計画
実行



Getty Images

ビンラディン容疑者

隠れ家

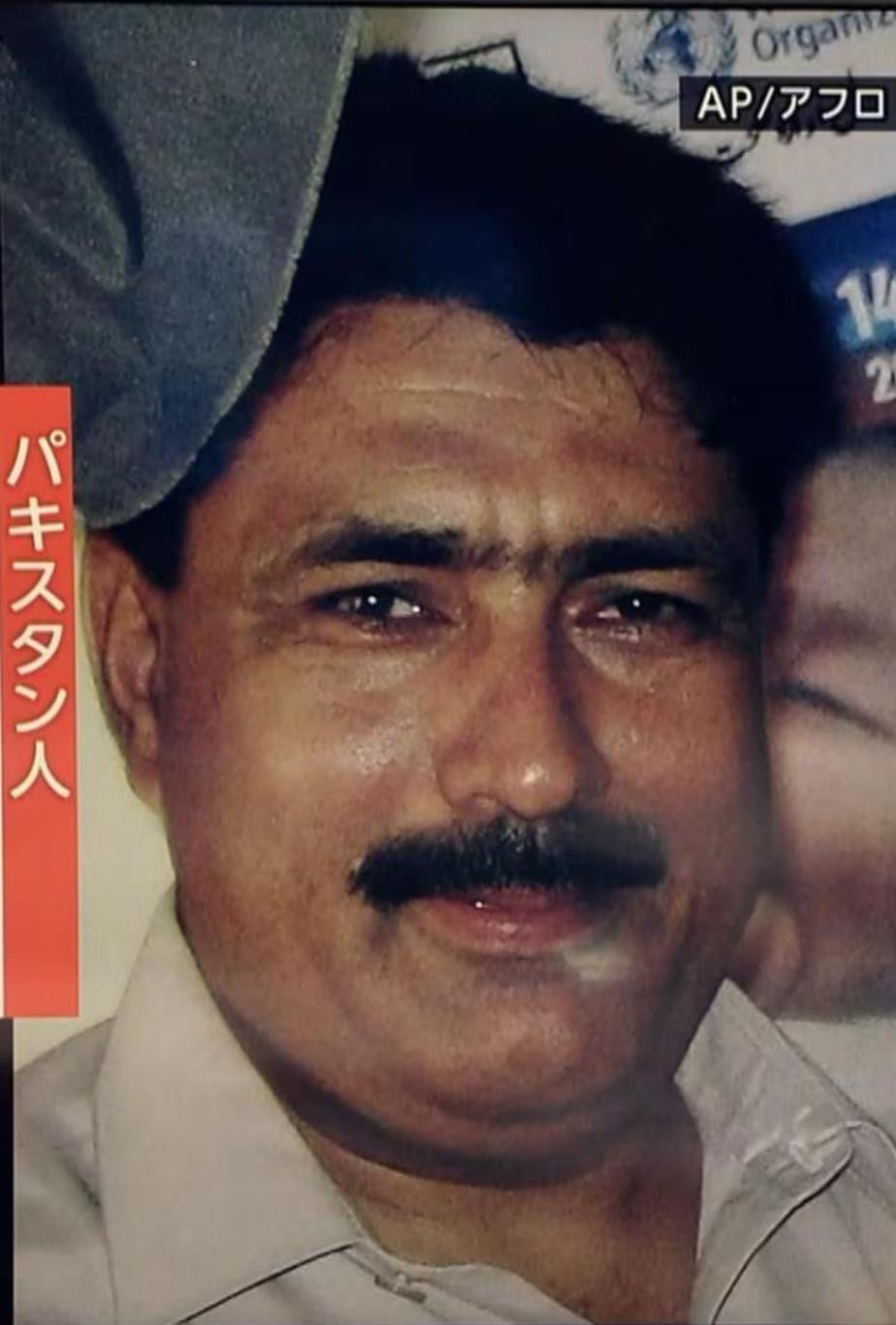
油井's
VIEW

“ワクチン不信”の要因に
“ビンラディン容疑者殺害”



[油井's View 最新記事一覧はこちら▲](#)

“ の作戦に協力
国家反逆罪にあたる,
禁錮33年



アフリディ医師
パキスタン人



ポリオの現状

1988年以来、全世界のポリオの症例は99.9%減少しています。現在もポリオが常在する国は、アフガニスタンとパキスタンの2カ国のみとなっています。

アフガニスタン

5

野生型ポリオウイルスによる
発症件数

2024年:25

2023年:06

2022年:02

2021年:04

パキスタン

8

野生型ポリオウイルスによる
発症件数

2024年:74

2023年:06

2022年:20

2021年:01

※根絶直前は僻地に入る為感染者増加する傾向にあります。

(2025年4月8日現在)

全画面表示を終了するには Esc を押します

SPOT
LIGHT特効薬のない感染症 ポリオ
パキスタンで急増の背景は

NHKプラス 過去1週間分を配信中

アフガニスタン

21

カイバル・パクトゥンクワ州

パキスタン

27

パロチスタン州

21

シンド州

1

イスラマバード首都圏

1

16年ぶりに感染確認

2022年パキスタン史上最悪の洪水
治安悪化で人々が移動しウイルス拡散

■ 2024年 ポリオ感染件数

最新情報

最新情報はこちらから↓



お金の話

予防接種にかかる費用ですが、
日本において不活化ポリオワクチン1回が5450円
2023年に生まれた73万人に4回接種(4回接種するがルール)
『毎年日本だけで150億円以上の費用が必要』
世界が協力して根絶出来れば、予防にかかっていた費用を
他のことに使うことができます。

ポリオに関する事実

((@)) -

01

ポリオに最も感染しやすいのは5
歳未満の子ども

02

治療法はないが、ワクチンで予防
が可能

03

野生型ポリオウイルスの常在国は
わずか2カ国

04

1988年以来、発症数は99.9%減少

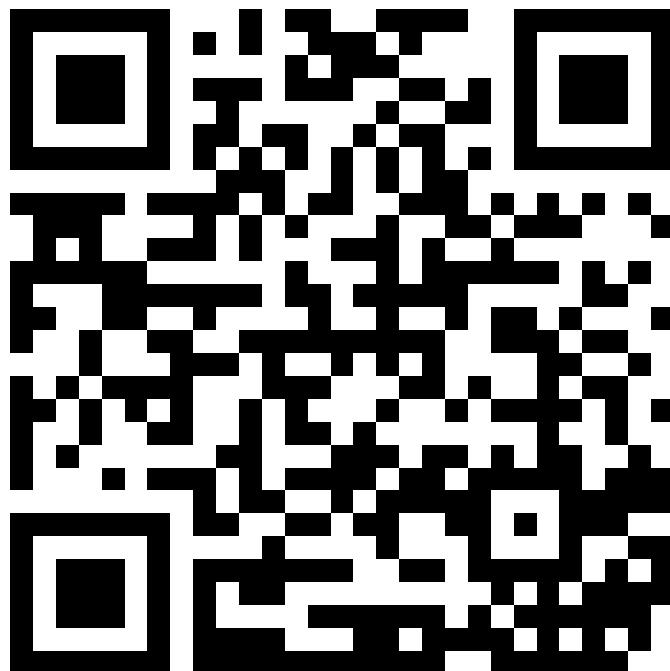
05

ポリオを永久になくさない限り、感染リスクは全世
界の子どもに



ポリオ・プラス・ソサエティ にご入会ください

申込はこちらのQRより↓
(ガバナー事務所HP)



ロータリー財団では資金の88%が事業費に
費やされていることから表彰を受けております。

毎年100米ドルをロータリー財団の
「ポリオプラス基金」への寄付
(ポリオ根絶まで)

ロータリーの取り組み

1979年、ロータリーは、3-H（保健、飢餓の追放および人間性尊重）プロジェクトとしてフィリピンで600万人の子どもへの一斉予防接種を計画。費用70万ドル、5年間のプロジェクトを成功に収め、膨大な資金をかけた大規模かつ組織的な一斉予防接種が可能であることを世界に示しました。そして

「ロータリーは、**1985年に創設されたポリオプラスプログラムを通じて“ポリオのない世界”というビジョンを初めて思い描きました**」

1988年にはロータリーとパートナーが世界ポリオ根絶推進活動（GPEI）をスタートさせました。

世界ポリオ根絶推進活動（GPEI）パートナー

- **世界保健機関（WHO）「戦略担当」**

GPEIの実施と管理、各国保健省に技術面や運営面のサポートを提供。活動成果のモニタリング、戦略の立案。

- **米国疾病対策センター（CDC）「ウイルス対策担当」**

疫学者、公共保健専門家、科学者を起用してポリオ流行について調査。ウイルスの種類と感染源を特定。

- **UNICEF（国連児童基金）「予防接種担当」**

ワクチンの購入と分配。予防接種の効用に関する認識向上。UNICEFのフィールドワーカーは現地のヘルスワーカーやボランティアと共に予防接種を実施。

- **ロータリー「アドボカシー担当」**

会員の持つ事業と専門職、ボランティアのネットワークを生かし、ポリオの認識向上、募金、地域社会の動員、政府や民間への支援の働きかけ（アドボカシー）を実施。これまでに100万人以上の会員がボランティア活動や募金を通じてポリオ根絶を支援。

- **ビル&メリンダ・ゲイツ財団「リソース担当」**

民間団体としてポリオ根絶に最も多額を寄付。技術面でのリソースも提供。

ご清聴ありがとうございました

私の世代は、ポリオの悲惨さをこの目で見てきました。ポリオの撲滅があと少しで実現できると知ったとき、私もこの取り組みにぜひ参加したいと思いました。これほど壮大な目標を達成できる機会はめったにありません。

Angelique Kidjo, (シンガーソングライター)